

第 14 回等々力緑地再編整備検討委員会 議事録

開催日時 平成22年 8 月 26 日(木)10:00～11:45
 開催場所 川崎市役所第 3 庁舎 1 8 階大会議室
 出席者 涌井委員長、武田委員、赤地委員、川島委員、渡辺委員、藤村委員、中野委員、
 岩森委員、尾澤委員、吉房委員、佐藤委員
 小野室長、原田部長、金子部長、本多部長、山崎副区長
 議 題 1 今後の検討スケジュールについて（公開）
 2 等々力緑地再編整備の検討について（公開）
 3 その他（公開）
 傍聴者 10人
 会議内容

委員長あいさつ

涌井委員長	<p>2 年前の 8 月 8 日、暑い中等々力緑地にお集まりいただき、検討委員会開催前の勉強会をした。それから 2 年間さまざまな形で検討をいただき、当初は等々力緑地内の議論でとどめる予定だったが、小杉の再開発や川崎市全域における位置付けまで目配りすべきという話もあり、さまざまな御意見を頂戴して今日まで参った。前回委員会では、基本的な等々力緑地の特徴を決定付ける大規模施設以上に、地味であっても公園緑地の本質的な存在効用を高らしめる部分について御検討いただいた。いよいよ今回は、骨格的な施設の配置やあり方について御議論いただく。</p> <p>次第 1 の今後の検討スケジュールについては、毎回添付しているスケジュールに基づき、今回基本計画をまとめた後、必要に応じて部会（施設部会、競技場部会、野球場部会）を開催し検討するということだが、基本計画に沿って詳細を詰めていきたいという事務局の考えがあるように思う。今回をもって、再編整備基本構想を定めた後の基本計画として次の段階へ進めたい。次第 4 にもあるように、大規模施設配置案の詳細検討になるが、自由闊達な議論をお願いしたい。公園の規模面と中心施設がうまくバランスを取るにはどれが良いかということについても御検討いただきたい。</p> <p>大変お暑い中ではあるが、よろしく御議論のほどお願いしたい。</p>
-------	---

1 今後の検討スケジュールについて

事務局	今後のスケジュールについて説明
涌井委員長	説明があったように 11 回～14 回委員会の積み上げの中で、大規模施設について議論できる環境が整った。そこで今日議論いただき、方向性が練られればこの委員会を閉じて、再編整備基本計画として公表したいということ。

2 等々力緑地再編整備の検討について

事務局	資料説明（硬式野球場の緑地外移転検討結果について）
涌井委員長	<p>川島委員にも御了解をいただいております、いろいろな観点から硬式野球場を緑地の外に出せればということで検討していただいた。</p> <p>11,000人収容の大和引地台野球場をモデルにしているが、野球場自体の面積に、さらに駐車場などを入れると4ha～5ha必要となる。今はそのことを配慮せず、敷地に当てはめて球場本体が入るか入らないか検討したが、それでも入らないという趣旨の説明ということか。入らないものは仕方がないが、もっと他にないのかという感じだが、非常に残念だがそのことを前提として次の話をしていただきたい。</p>
事務局	資料説明（大規模施設の配置案について）
涌井委員長	よく分からない部分もあるが、役所として公式に示せるのはこういう雰囲気だと思うので、皆様方から率直に質問していただいて議論を分かりやすいものにしていきたい。
武田委員	<p>配置案について提案したい。（資料配布）</p> <p>今お配りした大規模施設配置案の図を見ていただきたい。大規模施設（陸上競技場、硬式野球場、サッカースタジアム）3つを緑地内に入れる案。そういう意味でD案の派生というか、3つを入れる違う形の案。サッカー場を大胆に現在のサブトラックの位置に持ってきて、硬式野球場を左上の現在の第1・第2サッカーグラウンドの位置に持って行ってはどうか。残りのブルー（※青、ブルー、水色は同じ部分を指す）のラインで囲まれた部分に緑の再配置、ジャブジャブ池・陸上サブトラック等を造り直し、運動広場等もここに入れてはどうか。これなら先ほど問題になった多摩川への軸線も確保できる。D案で問題となっていた軸線を、途切れることなく真っ直ぐエントランスから多摩川へとることができる。裏を見ていただいて、配置案のコンセプトとしては、サッカースタジアムをミュージアムとアリーナのすぐ近くに持ってくることで、現状では十分に使いきれているとは言えない市民ミュージアムを、スタジアムと運動性を持たせることで活性化させることができる。スタジアムでの催事にはスタジアム来場者の休憩スペースとして機能させ、連携することで利用数を増やしていく。スタジアムの催事にアリーナを併用することで大きなイベント開催が可能になるほか、各種スポーツとの交流・活性化などが図れる。</p> <p>それから、サッカースタジアムと市民ミュージアム・とどろきアリーナの間に生まれるスペース、—サッカー場の隣のピンク色の部分—に賑わい・憩いの空間をつくってはどうか。欧州におけるランドマークと市場の関係のように、ランドマークとなるスタジアムは、すぐ側に賑わいがあってこそ人を惹きつけるのではないかと。市民ミュージアム・アリーナ・スタジアムをデッキでつなぐことも可能ではないか。音楽イベントもスタジアムを含めて3施設で開催し、音楽の練習も、ここで行えば騒音問題が解決できるのでは。ふるさとの森のイメージも変わる。</p> <p>硬式野球場は現在の第1・第2サッカー場の位置に新設する。内野をミュージアム側に、外野を下水処理施設の方へ向けて芝生席等にすれば、地下施設への荷重負担も改善されるのでは。下水処理施設の整備状況によっては増設も可能ではないか。</p> <p>サブトラックは陸上競技場の近くへ持ってくるのが本来の姿ではないか。釣池の一部をジャブジャブ池化すると同時に、その周辺を利用してふるさとの森から日本庭園へ</p>

武田委員	と続く緑の連続性も形成できる。運動広場・催し物広場・サッカー場等をメインエントランスから入ってすぐの場所に配置すれば見通しも良くなる。駐車場は地下化する。プールもサッカースタジアムとの複合化で可能になるのでは。 是非御検討いただきたい。
涌井委員長	いろいろな意味で練られた案という気がしている。これについて事務局も含めて率直な意見交換をしていきたい。よろしければ、S案としてさまざまな意見交換をしてはどうか。5案を検討するということが今後議論を進めさせていただきたい。S案について反論なりそれは難しいという御意見があれば、率直におっしゃっていただきたい。
事務局	非常に大胆な案。3施設の配置がされているが、水色の部分については具体的な配置がないので、私もまだ頭の中で整理がついていない。もう少し時間をいただきたい。もう少し個別施設とのやり取りを進める中で話していければと思う。
涌井委員長	硬式野球場を第1・第2サッカー場に移すとあるが、その大きさはどの程度か。
事務局	(配置案を見た感じだと) 4,000人規模の現硬式野球場の大きさだと思う。
涌井委員長	これが11,000人規模となると2回りほど大きくなる。それでも入る可能性はあるか。
事務局	配置の仕方によると思う。
涌井委員長	S案を含めすべてにおいて目配りしないといけないのは、つくるのは重要で苦労もあるが、継続的に運用して、競技がない時でも市民の総人口参加率が高い魅力ある施設であり、なおかつ施設運営を考えるということ。行政が行うにせよ、指定管理者等が行うにせよ、運営意欲が持てる、あるいは運営の事業設計が描ききれる中身でないと、良いものができても更新やリノベーションをしながら継承できない。建設プロセスと運営における価値観が重要な視点。 また、公園機能を損なわずに大規模施設を建設すること、プライオリティに配慮しながら運営意欲・総市民参加率を上げること、この辺を検討しながら、5案についてそれぞれ御意見を頂戴したい。
中野委員	事務局に質問だが、武田委員の提案による硬式野球場の移動について、過去の論議の中で下水処理施設上部は重量制限で大規模施設の建設は難しいとあった。野球場のスタンド部分はここに建設可能なのか。不可能ならこの部分の論議は難しいと思うが。
事務局	おっしゃるようにこの場所は下水処理施設が地下に建設されており、上部は盛土の荷重と人の歩行に対する強度以上は見込んでいないので、こういう荷重のかかるものを上に乗せた場合、下の構造物がもたないと思う。強度計算を確認しないといけないが、スタンド建設は難しいとは思う。
中野委員	私も武田委員の案はすばらしいと思うが、一点そこだけ引っかかったので質問した。S案だと施設有効利用の点ではすばらしいし、ラインも通る。S案ではD案よりもサッカースタジアムを上を持ってきている。サブトラックの部分までスタジアムを持ってくるということだが、それなら、D案でも野球場をテニスコートの位置まで下げてテニスコートを移転することでラインを通せるのでは。テニスコートとサブトラックは平面だから下水処理施設上部でも可能では。そうすれば、S・D案の折衷の中で良いバランスがとれるのではないか。

涌井委員長	事務局でも S 案のような提案について検討されたような気がしているが。遠慮しないで、後でゴチャゴチャ言わないためにも反論があれば今していただきたい。今までこういう経過があって、こういうところが難しいとあれば反論してほしい。
事務局	先ほど建設緑政局長から（硬式野球場を第 1・第 2 サッカー場に持ってくることに）配置次第だという柔らかい回答があったが、現在サッカー場を 2 面とっている位置について、今後多摩川サイドに調整池の建設が残っているが、その南側区域についてもスタンドにすることは基本的には難しい。 今回の等々力緑地再編整備の大きな方向として公園の機能を損なわないことも大切。基本構想の段階で、公園らしさ・緑の再生というプログラムが組まれてここまで 13 回検討されてきた中で、方向と整備、施設のしつらえが（S 案は）あわないのではというのが正直な感想。具体施設についてどう配置していくかは、水色の部分も含めて検討しないと建築物の持つボリューム感や周りに与える影響を想像できない。この段階で良いか悪いかはなかなか言いにくい。ただ、ステップ・バイ・ステップで進めてきた中で A～D 案を検討してきたが、検討に S 案を加えることもやぶさかではない。御意見をいただいて事務局で整理したい。
事務局	中央グラウンドにはサブトラック・運動広場・多目的広場があるが、多目的広場を造る前は野球場が 2 面あった。今は 1 つになり、野球場確保の要望もある。それなのに、その野球場もなくなるというのは厳しいと考えている。
涌井委員長	質問させていただきたいが、今までサッカーと陸上についてそもそも 2 つは両立しないという原則があり、本来は別個にしたほうが良いということだった。一方で、S 案では現陸上競技場の近くにサブトラックを設置すると文言ではあったが、図面のようにサブトラックがなくなると陸上競技開催時のグレードが落ちる可能性がある。第二競技場が整っているから競技場としてこの位置づけを認められるという説明を検討委員会の中で受けてきた。この点について事務局から反論がないのは私の誤認なのか、それともどうなのか。
事務局	第一種公認を維持するためにはサブトラックが必要であり、私もこの絵を見たときは同様に感じたが、武田委員から具体的な配置はないが水色の範囲のどこかにサブトラックを入れるとあったので発言を控えた。 サブトラック南の多目的広場については野球場としての利用もあるが、運動広場とあわせ少年サッカー大会を 3 面とってやっている。また、左上の（第 1・第 2）サッカー場も利用度の多いサッカー場。トータルでフルスケールのサッカーコートで 2 面、少年サッカーをあわせると、5 面程度のサッカー場がなくなるが、サッカースタジアムができればその点は良いのか。
武田委員	下水処理施設上部に移動可能と考えている。サッカー専用競技場ができることで利用度が上がり、（広場の面積が）少なくなった分をここで吸収できると考えている。あとは青の囲み部分で検討できる。何をどう配置するかはまだ考えていない状態なので、検討の中で考えていく。
涌井委員長	サブトラックの配置を含め、青色部分で検討するということ。 S 案のサッカースタジアムの規模想定はどの程度か。

武田委員	35,000 人ぐらい。
事務局	青囲み部分に施設を配置して描き込まないとイメージをつかみにくい。釣池が半分なくなっていたり、運動施設をたくさん持ってくることになれば、運動公園をつくるイメージになる。等々力緑地のあり方とこれまでの検討から考えて戸惑いを覚えている。どんどん施設を造るという声があればできるという提案だが。小杉駅周辺の開発により川崎市の人口が増え続けている中で、市民の潤い・憩いの創出を大テーマとして検討してきて、基本的にこの考えについて異論はないことを確認して進めてきたが、武田委員の御提案によれば、等々力緑地は敷地としてできるだけ施設に使っていくという方向転換になると考えられる。この配置案について議論することとあわせて、前提となる等々力緑地のあり方をもう一度問わないといけないと感じている。
武田委員	私にとってのスタートラインは陸上とサッカーの共存ができるのかというところ。陸上の状況も見たときに 2 施設ないと厳しいという現場の意見もある。その中でサッカースタジアムを造ると申し上げている。3 施設造ることが等々力緑地の本来あるべき方向性と違うとはならない。事務局も D 案を検討しているのだから、3 施設を入れる方向性もあるということではないのか。その中で D 案の配置を変えようというだけ。
涌井委員長	D 案について説明いただきたい。
事務局	6 ページで検討の視点に基づいたメリット・デメリットで○×評価をしているが、基本構想以降の取組の中で、等々力緑地の基本的な考え方ということで、緑豊かな安らぎと安全・安心の場となる公園だとか、水と緑の再整備をあげてきた中での評価なので、それを念頭にお聞き願いたい。3 施設配置は詰め込めばできるが、その時どうなるのかを書いている。これまでの視点から考えると、△がひとつあるが他は×になっている。施設間が狭い、動線が狭い等、大規模施設以外のスペースが確保できない。それは等々力緑地のあるべき姿ではないという考えがあるので、一定の広がりを持った公園整備を考えたとき難しい。 ただ (3 施設配置が) できるできないということ、入れたときにどんな形になるのかということを検討せずには先に進めないため D 案の検討を行った。
武田委員	今 D 案に×がついているのはこの配置だから。×をとるためにはどう配置するのか、どうすれば×が△や○になるのか、それを考えたのが S 案。
事務局	そういうことなら、水色の範囲を含めて具体的に施設を描き込んでどうなるか見ないとわからない。(水色の中に配置する) 施設名を言葉でさらっと書かれているが、相当のボリュームになるのは武田委員も御承知だと思う。どんな形になるのか描いてみて、その際に、主要動線の幅員は 30m として他の案を作っているのだから、そういう評価をしないと現段階でよし悪しを決めるのは乱暴な話。

<p>涌井委員長</p>	<p>S 案はなかなか練れていると思うが条件がある。ブルーの部分には一切営造物を持ち込まず、ここに緑と水のスペースが担保されれば S 案はなかなか魅力的。緑に囲まれたスタジアム、スポーツと音楽のまちづくりの中での位置付け、また重要な防災機能を持たせるためにもオープンスペースは多いほうが良い。多目的広場・運動広場など書いてあるのを抜きにして、水色部分を空きスペースとして具体的な検討を進めてみては。D 案は、私も配置に問題があると認識しており、A・B・C 案は配置云々ではなくスペースのとり方として、本来の公園としての性格を強調する意味で良いのでは。</p> <p>委員の先生方にも理解いただきたいが、行政は一つ一つの施設に一つ一つお金を投じてきており、この償却の期限が来ないまま取り壊すというのは、市民の税金を投入してきたプロセスの自己否定につながる。その経過を尊重せざるを得ない。そのときにベストだと考えてやってきたものを、新しいイノベーションが起きたから軽く変えるという無責任なことはできない気持ちはよく分かるし、ブレーキをかけるのは当然のこと。しかし、それを超えてイノベートするだけの価値があるならばチャレンジする可能性もある。そこが大きな議論だと思う。御検討いただきたい。</p> <p>やはりサブトラックが気になるが、箱型サッカー場内に陸上の大会時にサブトラックはとれないのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>難しい。</p>
<p>涌井委員長</p>	<p>どのような技術的解釈があるのか、(S 案を) 私も見せていただいたばかりなので、まだ逡巡している状態。もう少し皆さんから他の意見や A~C 案についての意見も頂戴して、S 案を位置付けることにさせていただいた上で検討したい。</p> <p>武田委員に御了解いただきたいが、水色部分についてできるだけ建ぺい率を高めない本来の公園のあり方として検討できるなら、そこを条件にして検討したい。</p>
<p>赤地委員</p>	<p>S 案に賛成したいが、ブルーの部分にあまり手をつけなくなると、サッカースタジアムができてサブトラックがないことになる。ルールブックでは、どの大会が第一種とは載っていないが、サブトラックが必要とあるので、スーパー陸上や日本選手権の開催ができなくなる。第一種公認として利用できないということではないが、サブトラックがないままで第一種公認競技場として成り立つかというそれはできない。その点で他にサブトラックの補償場所がはっきりすればよいが。陸上競技場とサブトラックが一緒にあると言っているの、S はよいが。ただサブトラックの問題をどうするかということで話が止まる。</p>
<p>涌井委員長</p>	<p>サブトラックの規模はルールブックに定められているのか。</p>
<p>赤地委員</p>	<p>サブトラックは第三種競技場であればよい。メイン競技場との距離は書かれていないが、現在より遠くなってバスで移動するのは避けたい。現在よりも近い位置にあるのが望ましいが、現在くらいの距離で結構。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>サッカー・陸上の思いをずっと聞いていてその通りだとも思う。とはいえ、以前幕の内弁当と言ったが、限られたスペースに思い入れのある大中小の施設をこのまま中に入れると、施設のオンパレードとなる。間引くものは間引く、諦めてもらう、そしてどこにプライオリティをもってくるのか。全部入れるのは難しい話。</p>

渡辺委員	もうひとつは市民目線で見たとときに、民間のオペレーション・民間活力導入のための施設配置としてどう見るのか。それから、市民活力から見たときにどうなのか。市民から見たときサッカースタジアムがほしいのか。9月に基本計画をまとめるとあったが、総合的に検討してそこが成り立つのかももう一度ふまないと、後でいろいろなところから意見が出たときに危険を感じる。
事務局	今後民活導入は考えている。建設・整備・維持管理・修繕計画に市の財政状況も含めて担保するには、民間の力を借りてパークマネジメントをする前例もあるし、等々力よりも条件のよくないところ—人口が少なかったり、都心部から離れたところ—でもオペレーションが可能。それを考えると周辺アクセス等も含めて課題はあるが、等々力は好条件と考えている。民間の力と市民活力の力学と考えているので、そのバランスの中で図りたい。施設を全部入れると公園の価値・魅力がどうなるのかその点はこちらも心配している。この間積み重ねてきた議論をもう一度スタディしながら水色部分についても検討する必要があると考えている。
涌井委員長	今の御意見の一番のポイントは、今日（の議論）で9月になだれ込めるのかということ。（渡辺委員の趣旨は）そういう疑問だと思うが、そこはどうか。
事務局	これまでのスケジュールでは、今までの検討に一定の御了解を得たことを前提に考えていたが、武田委員の御提案もありこのままでは難しいので、もう一度スケジュールを調整し、すべき評価をして検討するのが良いと思っている。
事務局	スケジュールのことを申し上げますと、今回等々力緑地だけでなく、第3期実行計画（H23～25）の政策実行の議論中で緑政・スポーツ行政も含めて検討している。その時に全体の事業費が前提になるので、施設や緑地の保全も含めて全体ボリュームがどうなるのか。平準化など財政が厳しい中で、どうプライオリティをつけていくのかという話がある。こちらとしてはこの3ヵ年にこの事業を位置付けたい。逆算すると9月ぐらいには一定の配置・政策の方向性を委員会からいただいて、具体的な事業費がどのくらいになるのか位置付けたい。スケジュールを崩したくない。そうしないと第3期実行計画で除かれてしまうかもしれないので、ここが正念場。議論はあるが、一定の配置の基本的な考え方や施設のボリューム感をある程度まとめていきたいのが本音。
事務局	委員から幕の内弁当という御指摘もあったが、水と緑の部分が切り捨てられると利用されている市民にとっては厳しい。市民の利用者のためにも残したい。硬式野球場は荷重の点で下水処理施設上部にスタンドを設置できない条件の下造ることになる。物理的なことを考えると難しい条件になると感じている。
涌井委員長	実は武田委員からの御提案がなければ、D案は公園の本質に外れているので反対しようと考えていた。A、B、Cについて今回の委員会後、方向性の中である程度の微調整のみで、委員長に一任と考えていたが、武田委員から出た案はある程度積み上げられている。それはコンセプト案を読んでもよく分かる。ぽっと出してきた案ではない。それを考慮すると、仮にS案がダメだと結論が出ても、例えば下水道の上はダメとおっしゃっても、荷重がこうだからダメだと武田委員の御提案に対して理論的に説明できないと、単なる外観的にダメというのはありえない。真剣に検討してはどうか。

<p>涌井委員長</p>	<p>その上で水色の部分について、水と緑の公園があつてなおかつそこに音楽とスポーツがあることが望ましいと考えている。そこが損なわれず S 案に近い形、S 案の改良案が可能ならば検討の価値がある気がする。検討していただきたい。</p> <p>委員会を 2 年やってきて最後に納得してもらえるか重要なところ。仮に S 案が難しいなら論拠をしっかりと示す。それなら武田委員に納得してもらえるのではないかと。</p> <p>局長がおっしゃったように、9 月にのらないとまずいというのもその通りだと思うので、もう一回委員会を開くのか、委員の中から数名で幹事会をつくるのか、委員長に一任するのか、いずれも 9 月にのるよう。H23～25 年にのらないと何のために検討してきたのかとなるのでどれにするか。幹事会でよいか。</p> <p>公園全般について、近隣・地域・環境などさまざまな立場から積み上がった意見を経て、最後は非常に専門的なところ。委員全員集まるのは大変。幹事を集めて今のスケジュール感を失わないようにする。もう一度幹事会という形で行う、また川崎市にも汗をかいていただいて懇切丁寧な御説明をいただく。その進め方でどうか。</p>
<p>事務局・委員</p>	<p>了承。</p>
<p>涌井委員長</p>	<p>人員選定については私に一任してほしい。</p> <p>藤村委員に伺いたい、施設を造るのは簡単—実際は簡単ではない—だが、血税なりを投入して造る。サッカー協会でも新しいサッカースタジアムの基準・方向性が検討されているよう。それを考えるとせつかく造っても造りなおさないといけない、今度ワールドカップが来たときに川崎市が手を挙げられなかった、となると良くない。サッカーと陸上の兼用の問題点や運用の問題点があれば、簡単に教えていただきたい。</p>
<p>藤村委員</p>	<p>陸上とサッカーの兼用から、サッカーはサッカースタジアムでというのが日本サッカー協会・Jリーグで考えている流れ。その中で S 案は新鮮。サッカースタジアム・ミュージアム・アリーナ・プールを総合的に運用するアイデア。つくった後の民生活導入等においてもメリットは高い。あとは、青の範囲でどの程度公園らしさ・緑の確保ができるかということになる。そうすると、今第 1・第 2 サッカー場などでまかなっているアマチュアスポーツを、この公園ではなく川崎市の他の場所で調整できるか否かが、もしかするとポイントになるのでは。</p> <p>A・B 案を比較してもほとんど変わらない。実際発災したとき、競技場内も避難所になる。(発災時の比較で A 案は○で B 案は△だが、) 本当に○と△の間に差はあるのか。</p> <p>多摩川についても河川に沿って道路が走っており緑地と分断されている。その中で(軸となる)園路についてもそれぞれの曲線具合に何の差があるのか。そういう意味でも大胆に組み替えて緑の広がり・機能も出せたほうが良いのではないかと。</p>
<p>涌井委員長</p>	<p>パークマネジメントを念頭に置いたとき、ずっと継続して企業・市民も含めて参加できるかどうか、配置だけではない観点も重要。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>他のところでパークマネジメントをやってきているが、以前に幕の内弁当と言ったが、等々力緑地のポテンシャルは悪くない。恵まれている。その部分をもう一度きちっと押さえる。ハンディや課題ばかりではなく良い意味で捉え次につないでいく。</p>

渡辺委員	<p>それから、全部やりたくてもやはり切るところは切る。プライオリティのつけ方が焦点なので、ニーズもあるし思いもあるだろうから検討する。そうは言っても、例えばミュージアム等は当然消せないし、そういうことに対してオペレーションされている組織があると思う。指定管理者制度を導入するにせよどこまでパークマネジメントを民間がやるのか。配置のベースもあるが、そこに対してのワーキンググループをつくっていただき、民間・市民活力、マーケティングという中での導入を検討する。ハードができてからどこかにイベントができないかなど、後付けの空間利用の話が多く施設で起きているが、そういうことがないように同時並行的に入れていく。その力学をうまく取り入れていただくこともワーキングとして立ち上げていただきたい。</p> <p>本当の意味でのパークマネジメント、等々力としての新しいスタイルを是非目指していただきたい。</p>
川島委員	<p>S 案は私もすばらしい案だと思う。スポーツを愛する人間の一人として、陸上競技場とサッカー場は分離しないと気の毒だと思う。</p> <p>先ほどから出ているが、硬式野球場を造るとき強度の問題がある。野球場の規模を考えると、造るところは中原地区には河川敷以外にないというのが現状で、各チームがグラウンド確保に苦労している。S 案にするのであればその辺を考慮してほしい。</p> <p>また、サブトラックでは高校生が汗を流している。なくなるとそのやり場・練習場がなくなってしまうので、それも含めて検討してほしい。</p>
涌井委員長	<p>幹事会を立ち上げることについて、幹事を希望される方いるか。 (中野委員、武田委員、赤地委員、川島委員、渡辺委員が挙手)</p> <p>幹事会を開くまでの間、S 案を含めてしっかり検討していただきたい。行政にとってこれまでの経過は重要だが、何かをやるときはクリエイティブな発想をしないとブレイク・スルーができない。そういう立場でも御検討いただきたい。幕の内弁当でなく本当に明確な性格のものにするのであれば、大胆な引き算も必要に思う。施設そのものが出来上がってから何ができるのか?ではなく、出来上がるプロセスの中でさまざまなステークホルダーの参加がいざなえる仕掛けを仕込んでおく。基本構想から基本計画、基本設計の段階へ移ったときにさらに詳細な検討が必要だということも踏まえて是非検討していただきたい。</p> <p>幹事会はいつ頃になるか。</p>
事務局	<p>局長からお話があったスケジュールもにらむと、9月上旬～中旬を検討している。検討委員会としては本日が最後、ありがとうございました。</p>